

平成 22 年度 国際ボランティア貯金センターの支援にかかる
「NGO 講演会等概要レポート」

財団法人 ゆうちょ財団
国際ボランティア貯金センター

【NGO講演会等の経費助成】

(平成 22 年度実施概要)

国際ボランティア貯金の寄附金の配分を受けているNGOが学校、地域団体等で、国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、自団体の海外での事業活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

概要は次のとおりで、申請により当国際ボランティア貯金センターで審査しました。

なお、対象となる平成 20 年度または 21 年度に寄附金の配分を受けた団体には、文書で通知しました。

- 助成する金額は、講演会等 1 回につき所要経費のうち 5 万円を上限。
ただし、助成回数は 1 団体につき 1 年 1 回。
- 助成の対象とするのは、次の講演会等とします。
 - ・ 国際ボランティア貯金の寄附金の配分を 20 年度または 21 年度に受けている団体の講演会等であること
 - ・ 参加者（児童・生徒等を含む）が概ね 30 人以上見込まれる講演会等であること
 - ・ 平成 22 年 5 月から平成 23 年 2 月末日までに開催する講演会等であること
- 助成は申請受付け順とし、17 件の申請があり、すべて助成しました。

Index

1	アジア・アフリカと共に歩む会	1
2	特定非営利活動法人 アジア教育友好教会	3
3	特定非営利活動法人 イカオ・アコ	5
4	NPO カムカムクメール	7
5	特定非営利活動法人 オアシス	9
6	特定非営利活動法人 環境修復保全機構	11
7	特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか(TIFA)	13
8	特定非営利活動法人 国際視覚障害者援護協会	15
9	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち	17
10	CRI-チルドレンズ・リソース・インターナショナル	19
11	スリヤールワ スリランカ	21
12	特定非営利活動法人 DANKA DANKA	23
13	特定非営利活動法人 地球の友と歩む会	25
14	特定非営利活動法人 地球ボランティア協会	27
15	徳島ネパール友好協会	29
16	特定非営利活動法人 プロ・ワークス十和田	31
17	宮城国際支援の会	33

アジア・アフリカと共に歩む会

1. 開催日：平成 23 年 1 月 9 日
2. 開催場所：埼玉県さいたま市浦和区東高砂町 11-1
 コムナーレ 10 階
3. テーマ：「南アフリカの学校・地域への教育と農業技術支援
 ～環境、農業、食の諸問題に照らして～」
4. 講師：平林 薫氏（アジア・アフリカと共に歩む会南アフリカ事務所代表）
 津山 直子氏（関西大学客員教授・特定非営利活動法人アフリカ日本協議会理事）
5. 参加者：38 名
6. 内容：1 部 講演「コミュニティの中心としての学校の可能性「本と畑」
 ～自立に向けての図書支援活動、広がる菜園活動～」
 2 部 講演「生物多様性を守る住民主体の農業
 ～「ないもの」ではなく「あるもの」に目を向ける～」

～ ～

講演会内容

■講演概要

1 部 講演 平林薫（アジア・アフリカと共に歩む会南アフリカ事務所代表）

- ・コミュニティの中心としての学校の可能性「本と畑」
～自立に向けての図書支援活動、広がる菜園活動～

本団体は、19 年間にわたって南アフリカ共和国の教育が立ち遅れた地域の学校に本（約 37 万冊）と移動図書館車（28 台）を送り、図書普及活動を行ってきたが、支援対象校の環境が整い、生徒達が読書習慣を育てている様子を、映像を見せながら報告した。

図書支援活動は、国際ボランティア貯金配分事業であるが、図書室を作るスペースのない学校にはコンテナ図書室を配備し、スペースのある学校には空いている教室に本棚を配備して図書室を設置したこと。当初なにもない殺風景な教室に、本棚と図書を配布することで、充実した図書室ができあがるプロセスを、写真を見せながら詳しく紹介した。また、そこで生徒達が読書クラブなどを作り、皆で読書をしている様子を紹介した。図書を通じて生徒達の読解力・基礎教育が着実に向上したことを報告した。

また、JICA 草の根技術協力事業として学校菜園・家庭菜園プロジェクトを実施してきたが、学校菜園活動の活動地域が広がっている様子を報告した。

2 部 講演 津山直子（関西大学客員教授）

- ・生物多様性を守る住民主体の農業
～「ないもの」ではなく「あるもの」に目を向ける～

農業支援において、「ないもの」に目を向けると援助依存になるので、現地に元々ある有形無形のことを大切に育てていく方法で支援することと、周りの環境と調和した農業支援をすることの大切さを説明した。

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：基礎教育支援のための図書配布、本棚・コンテナー図書室の配備
- 実施期間：平成22年4月から平成23年3月
- 実施地域：南アフリカ



特定非営利活動法人 アジア教育友好協会

1. 開催日：平成22年7月7日(水)～9日(金)
2. 開催場所：福井県内5校の小学校
 - ・坂井市立平章小学校
 - ・勝山市立成器西小学校
 - ・勝山市立村岡小学校
 - ・坂井市立三国北小学校
 - ・鯖江市立河和田小学校
3. テーマ：福井県出前授業「アジアで学校を作る。交流で学ぶこと」
4. 講師：谷川 洋氏：認定NPO法人アジア教育友好協会(AEFA) 理事長
佐藤佳子氏：認定NPO法人アジア教育友好協会(AEFA) チーフコーディネーター
5. 参加者：合計約672人
 - ・坂井市立平章小学校 6年生80人
 - ・勝山市立成器西小学校 3-6年生約150人
 - ・勝山市立村岡小学校 3-6年生約150人
 - ・坂井市立三国北小学校 全校生徒240人
 - ・鯖江市立河和田小学校 5年生52名
6. 内容：1. 建設地を訪問し、学校がない地域や学校に行けない子どもたちの生活について
2. アジア教育友好協会の学校の創り方
3. 交流で気づいて欲しいこと。学んで欲しいこと

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

最初に谷川理事長から、「自分は福井出身で、福井地震で生き延びることができた。そのとき『将来、人のためになることをする』と兄弟と誓い合い、会社生活が終わってから、今の仕事をしている。」と、AEFAの成り立ちの話と、地方のみんながこれから日本の力となっていくから、がんばって欲しいとの挨拶の話があった。

次にチーフコーディネーターの佐藤氏より、出前授業を行った。

アジア教育友好協会で学校建設を進めているアジアの山岳地域の生活、学校に行けない子供の様子、山の上で寄宿生活を送りながら勉強する子供の様子を、ラオスの映像『ダーちゃんの一日』や他の写真等で紹介した。その中でもタイのNGOスタッフのペットさんの実話『象に乗って学校へ行く』の話には子どもたちは、しんと静まり聞き入り、また現地の子供の夢は「大人になること」というのには、現地の大変な生活の状況を実感しているようだった。

そのような地域で、様々な機関、団体が支援をし、学校を作っているという説明を行った。AEFAは国際ボランティア貯金から助成を受け、ラオス、ベトナムで学校建設をしていることの説明。またAEFAの学校の創り方は、『村人と一緒に、村人が自分たちの学校を作る。村長がリーダーになり、お父さん、お母さんが協力して学校を作る。机、いすもみんなで作る。学校ができたあとも、AEFAは学校を見守る。色々な活動を通して 村がまとまり、「自分たちの学校」になる。学校を中心にみんなが 村を発展させる。教科書を支援したり、先生のトレーニングをする』という方法で、子ども達は日本とは大きく違う学校建設に驚いていた。

また、交流については、「ただ現地が貧しいという現実だけでなく、アジアの子供たちからも学ぶことは多い。」ということを中心に話をした。今日の日本は、アジアの人に助けられている。日本の子どもたちのように、校舎があり、教科書、文具が揃っていて、おいしい給食が食べられるのは、世界の中ではほんの一握りであるという現実を、『もし世界が100人の村だったら』になぞらえ、その人数を教室の子供たちに、立ってもらったりしながら認識してもらった。

他にも、フレンドシップ校についても、旧校舎の様子→新校舎になって環境がいかに変わったか。現地の先生、児童、親の感想、これまでの交流校との交流の様子、現地のこどもたちも交流を楽しみにしているという話をした。

最後に同行して頂いた元校長松本先生から、「今日は七夕だけど、ゲームが欲しい、旅行に行きたいというだけでなく、世界の他の子供たちのことを考えて、自分もボランティアをするということを考えてもらってもいいのではないか」というお話を頂いた。

子供たちからも、「ベトナムに給食はあるか」「学校は何時から始まるか」「保健室はあるのか」などの質問があり、ベトナムの生活に興味を持っているようだった。

2学期に現地からの作品も届く予定であり、今回の授業は、児童だけでなく、先生方も現地の生活を理解し、交流を深める機会となった。

### 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

■支援事業：①2009年：教育を受けられない地域の中学生のための教室新設及びトイレの増設等施設の整備

②2010年：小学校の増築（ベトナム）

③2010年：中学校の増築（ラオス）

■実施期間：2009年、2010年

■実施地域：ベトナム、ラオス



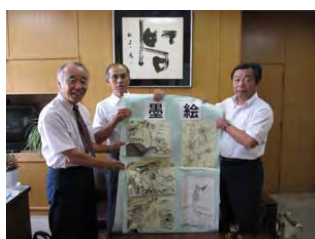
坂井市立平章小学校



勝山市立成器西小学校



勝山市立村岡小学校



坂井市立三国北小学校



鯖江市立河和田小学校

# 特定非営利活動法人 イカオ・アコ

1. 開催日：平成 23 年 9 月 30 日
2. 開催場所：愛知県豊橋市南牛川町 2-1-11  
桜丘高等学校
3. テーマ：世界の貧困をなくす「アクションプラン発表会」
4. 講師：平松 元夫氏他 2 名（高校教諭）  
後藤 順久氏（特定非営利活動法人イカオ・アコ代表）
5. 参加者：保護者も含めて 100 名
6. 内容：1. 主旨説明、審査員紹介、ルール説明  
2. 各班の発表（プレゼン）  
3. 審査会議  
4. 表彰、審査員からの講評

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

## 講演会内容

### ■講演概要

豊橋市内の高校生有志は、総合学習を中心として、日本と関わりの深い東南アジアの国々に目を向け学習を進めてきた。東南アジアの国々のことを知ると同時に、そうした国々の抱える問題についても考えてきた。貧困、人権・差別、食糧事情、環境劣化といった問題が何故起こるのか、先進国に住む我々にとって何ができるのか、イカオ・アコの講演や各自で調査した資料に基づき、学習内容を深めてきた。

以上のことを踏まえ、生徒達が 6 班に分かれ、世界の様々な問題について調べ、話し合った結果、どのような援助が可能なのか、どのように解決するのかを提案するプレゼンテーション「アクションプラン発表会」をコンテスト形式で実施した。

冒頭、イカオ・アコの活動紹介として、2003 年から 2005 年に実施した「マングローブ林近隣住民に対するカニの養殖技術指導」と 2010 年に実施している「植林および環境教育」について事例を紹介するとともに、これらへの援助事業として支援をいただいた国際ボランティア貯金の目的を紹介した。

コンテスト形式で実施した「アクションプラン発表会」の審査項目は、妥当性、有効性、自立発展性、独創性、PPT のできばえ、プレゼン自体の出来の 6 点で評価した。

発表を行った 6 チームとも、解決策という点では熟度が低いものの、それぞれの問題をうまく捉えており、世界の貧困に対する高校生たちの関心の高さと、このような取り組みの効果が見られた。

## 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：植林及び環境教育
- 実施期間：平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月
- 実施地域：フィリピン



# NPO カムカムクメール

1. 開催日：平成 22 年 10 月 2 日
2. 開催場所：東京都中野区東中野 4-4-1-1F  
space & café ポレポレ坐
3. テーマ：三井香織トーク&ライブ「国境なき音楽 芸大出身チンドン楽士」
4. 講師：三井 香織氏（クラリネット奏者 チンドン楽士）
5. 参加者：46 名
6. 内容：・第一部講演会、NPO 活動報告、第二部演奏会  
・写真展、カンボジアグッズ・歯科物品販売

~~~~~

講演会内容

■講演概要

第一部講演 演者：チンドン楽士 クラリネット奏者三井香織

『東京芸術大学、大学院在学中クラリネットの演奏に明け暮れていた時に、外国の曲目だけ演奏している事に疑問を感じ始めた。ミュンヘンのコンクールに参加したときにストリートミュージシャンに出会い、演奏者と聴衆の一体感に感動させられる。帰国後邦楽ジャーナルでチンドン楽士の活躍を知る。そしてチンドン屋老舗小鶴屋の親方に出会い、チンドン楽士として認められ、チンドン屋人生が始まった。チンドン屋の音楽は楽譜が読めても演奏できない事に衝撃を覚え、改めてその音楽の伝統や奥深さを思い知らされた。

現在はもっと音楽をきいてもらいたい、ということからケッセ・パッサを結成しミニコンサート開催や老人ホーム慰問を行っている。本業はチンドン楽士である。

国際協力については、音楽と一緒に、一足飛びにはできないことだと思う。好きな事、得意な事から始める事で苦勞を乗り越えられると思う。できる事を社会の役に立てたい、と思ったときから世界と繋がるのではないか・・・。』

NPO 活動報告 カムカムクメール沼口麗子 藤山美里 佐々木眞佐子

私達の活動が 2010 年度の国際ボランティア貯金交付事業認定を受けた活動であること、この講演会イベントにもゆうちよ財団から助成金を受けた事を来場者の方々にご報告をし、お礼を述べた。今年の 1 月と 8 月の活動を 20 分スライドショーにまとめ報告を行った。その後、カンボジアで活躍している歯科衛生士藤山、佐々木から活動に参加した報告を述べてもらった。

<国際ボランティア貯金配分事業の概要>

名称：子ども・保育者に対する歯科検診の実施及び歯磨き指導を中心とした健康教育
(カンボジア・プノンペン市、コンポンチュナン州及びカンダール州内の 7 箇所)

目的：「カンボジアの子ども達のむし歯を減らすために各地域、施設で計 100 名以上の大人に健康教育を実施する」

訪問場所：プノンペン市保育者養成校、カンダール州国道沿い集落 4 カ所・孤児施設、
コンポンチュナン州チュラップコントー小学校の 7 箇所

参加者：歯科医沼口麗子、歯科衛生士藤山美里・佐々木眞佐子の 3 名。

概要：第一期の活動を2010年7月25日（日）から8月5日（木）まで実施した。

国道沿い集落#1・#2の2地区を訪問し、歯の病気の原因や成り立ち、健口体操を全体指導で行い、その後3班に分かれ家庭訪問をしながら調査、歯磨き指導（主に母親と子ども）を中心とした健康教育を実施した。この結果大人120名、子ども140名に教育を実施できた。孤児施設では施設スタッフ11名に健康教育、健口体操、歯磨き指導、歯のクリーニングを実施した。保育者養成校では1年生204名と幼稚園の先生2名に第2回目のむし歯予防ワークショップを実施した。午前、午後と102名ずつに分け、前半1時間を講義、後半1時間を実習とした。後半の実習では第3回のワークショップで予定している併設の幼稚園園児に健康教育や歯磨き指導の教育実習をどのように行うかグループごとに相談し内容を発表してもらった。歌や寸劇があったが、次回まで発表の仕方や内容をより工夫するようにアドバイスをした。

第二期の活動を2011年1月13日（木）から22日（土）までを予定している。

訪問予定は国道沿い集落#3・#4の2地区、孤児施設、チュラップコントー小学校、保育者養成校の5カ所である。国道沿いでは大人と子どもの両方へ家庭訪問（20家族）を実施しながら健康教育を実施する。予定対象大人は40名の予定。孤児施設ではスタッフが子ども達に歯磨き指導ができるように教育をしていく。

小学校では保護者会で大人（30名）へ健康教育を実施することと、先生が親に保健教育ができるように冊子を作成する。保育者養成校では2年生204名が幼稚園児に教育実習で歯の健康教育を実践する。1年生200名は第一回目のワークショップを開始する。

第二期では大人50名以上、子ども50名以上に教育を実施する予定である。歯磨き指導を中心とするが、歯ブラシを全員が持っているわけではないので、ツバの働きの大切さも指導し、健口体操も取り入れる予定である。

第二部演奏会 演者ケッセ・パッサ クラリネット三井香織 アコーディオン長塩桂子

女性デュオによる演奏。国境なき音楽ということで、東京キッド、カンボジアの歌「アラビア」、タンゴピアソラなど世界中の音楽の演奏を楽しんでもらった。途中で楽器の紹介、「埴生の宿」、「幸せなら手をたたこう」を来場者と一緒に歌い盛り上がり楽しい会となった。

来場者の感想：演奏が素晴らしく引き込まれた。選曲が良かった。子どもも楽しめた。500円は安かった。経歴が面白かった。活動報告に動画あり分かりやすかった。場所柄かアットホームな雰囲気が出て参加して良かった。ジャーナリストの高橋さん（カンボジア在住）に会いたかった、等々。

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：子ども・保育者に対する歯科検診の実施及び歯磨きの指導を中心とした健康教育
- 実施期間：平成21年4月から平成22年3月
- 実施地域：カンボジア



特定非営利活動法人 オアシス

1. 開催日：平成 23 年 1 月 26 日
2. 開催場所：愛知県田原市野田町籠田 65 番地 田原市立野田中学校
3. テーマ：「立志の式と NGO 講演会」
4. 講師：足立 泰敏（特定非営利活動法人オアシス理事）
5. 参加者：81 名
6. 内容：a. 立志の式
b. 一人一人の誓いの言葉の発表
c. 国際ボランティア貯金制度とオアシスの活動
d. 記念講演 演題「自分磨きの旅ー我が人生地球人」
e. 渡邊理事長のマジック公演と国際支援活動の履歴
f. 国際支援活動でみてきたこと、若い人たちに期待すること

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

○ 演題の内容に入る前に、国際ボランティア貯金の制度についての説明や、私たちの法人が 1998 年から寄付金配分を受け実施してきた、主にガーナ共和国ならびにカンボジア王国での支援活動を会場に展示してあるパネル写真を利用しながら話をした。そして、きょうの講演会も本制度の一環であることを申し添えた。

ア. 渡邊理事長が国際支援活動に身を投じたきっかけがマジックの公演活動であることを踏まえ、現在も機会をとらえ精力的に活動していることを伝える。たまたま、当日は 66 か国目のエストニアでの公演活動の最中であり、極寒の地での活動、79 歳の年齢から渡邊理事長の人となり想像させた。

イ. 言葉が通じなくても驚きや喜びを誰もが共有することのできるマジックに魅せられ、30 歳代から自らの仕事を犠牲にして、その修業と公演活動に打ち込む。そのマジックの魅力とはということで、平出理事が 4 つのマジックを演じ、参観者からの盛大な拍手をいただいた。

ウ. 外国への支援活動のきっかけとなったモロッコでのマジック公演。そこでの肢体不自由の少女との交流が、車いすを集めモロッコへ贈る運動となった。多くの人、団体の協力で 112 台もの車いすを贈ることができ、充実感のある活動であった。この活動に勇気をもらいアフリカの貧しい国々へと支援の活動を広げていく。

エ. 内戦状態のエチオピアの孤児院での公演は、嬉しさと同時に悲しい思い出の場所となった。笑顔のない沈んだ子ども達の顔が、マジックが始まるときらきらと輝き笑顔で満ちあふれる。そして、会場がはちきれんばかりの興奮のつぼと化す。マジックのすごさである。しかし、子ども達との別れは悲しさがとりわけ大きく、戦争の残酷さを目の当たりに見た感じであった。

オ. 当法人オアシスの現在の活動を紹介。カンボジアでの学校づくり、文具・教具などの提供と教育活動の支援、緑化センターの建設と緑化推進活動、加えて各種の施設・学校でのマジック公演など。カンボジアの人たちの国づくりに少しでも応援できればといった思いで、支援活動に努力していることを語った。

カ. 私が渡邊理事長との活動の中で学んだことを大きく3つ挙げた。1つは、新しいことや未知の地域に行くことでショックを受ける体験を積むこと。2つ目は、新たなことに挑戦することで必要感を感じそれを育てること。3つ目は、常に憧れの存在を意識しそれに近づこうと努力すること、である。特に3つ目は、立志の式で一人ひとりが発表をした目標と同じであり、これらを大事に育ててほしいことを強く訴えた。

キ. 本講演のまとめとして、また、中学生のみなさんに贈る言葉として「自尊感情を育てる」の言葉について解説を加えた。ひょっとして自分は感じていないかもしれないが、多くの人が目をかけ心を配ってくれている存在であることを忘れないことである。家族はもちろん、友達・先生・地域の人たちなど。そんなことが感じれるようになると、自分がかげがいのない存在だと思えてくる。そして、そんな自分が好きになってくるもの。自分が好きになれば自分への期待もふくらみ夢の実現へと努力するものである・・・以上のような内容で講演を締めくくった。

### 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：小学校の教室増築、教員養成指導及び授業実施
- 実施期間：平成22年4月から平成23年3月
- 実施地域：カンボジア王国シェムリアップ州アンコール・クラウ村



## 特定非営利活動法人 環境修復保全機構

1. 開催日：平成 22 年 11 月 13 日
2. 開催場所：東京都多摩市落合 2-35  
パルテノン多摩 第一会議室
3. テーマ：「土と水をまもりたい ～アジアの開発と調和をめざして～」
4. 講師：名執 芳博氏（財団法人長尾自然環境財団 元国連大学高等研究所上席研究員）  
牧田 東一氏（桜美林大学リベラルアーツ学群国際協力専攻教授）  
上野 貴司氏（特定非営利活動法人環境修復保全機構 本部事務局長）
5. 参加者：32 名
6. 内容：講演① 「世界の SATOYAMA づくりと生物多様性」  
講演② 「持続的な社会発展における NGO による国際協力活動の役割」  
講演③ 「タイ農村の環境保全の担い手たちとともに  
～国際ボランティア貯金寄附金の配分事業報告～」

~~~~~

講演会内容

■講演概要

国際ボランティア貯金寄附金配分事業は日本の国際協力団体の草の根活動に多大な支援を行ってきた。本団体もこれまでにこの国際ボランティア貯金寄附金の配分を受けてタイ国で 2 事業、カンボジア国で 1 事業に取り組んできた。本団体が活動 10 周年を迎えるにあたり、タイ国における国際ボランティア貯金寄附金の活動成果を含め、「土と水をまもりたい～アジアの開発と調和をめざして～」をテーマに記念講演会を開催した。具体的には以下の 3 つの講演を行った。

(1) 講演①「世界の SATOYAMA づくりと生物多様性」名執 芳博（長尾自然環境財団）

SATOYAMA イニシアティブは、「自然共生社会」の実現を長期目標として、環境省及び国連大学高等研究所が中心となって進めている国際的取組である。日本の里地・里山のように、人々が関わることにより維持・形成されてきたランドスケープは、様々な形・呼び名で世界各地に存在する。しかし、日本の里山と同じように、都市化、産業構造の変化、地域人口の急激な増加又は減少などにより、危機に瀕しているところが多い。このようなランドスケープ（社会生態学的生産ランドスケープ）の維持・再構築に向けた取組は世界各地で様々な団体により進められている。SATOYAMA イニシアティブは、これらの団体が連携し、それぞれの取組の一層の推進と協働を目指すものである。関心のある政府、団体、専門家と準備会合を重ね、①多様な生態系サービスの安定的な享受のための知恵の結集、②伝統的知識と近代科学の融合、③新たな共同管理のあり方（コモンズ）の探求、を 3 つの行動指針とした国際パートナーシップが、51 団体の参加により、生物多様性条約第 10 回締約国会議の際に設立された。

(2) 講演②「持続的な社会発展における NGO による国際協力活動の役割」牧田 東一（桜美林大学）

人間社会が持続的発展をしていくには、人間一人一人が生物種として持続的に維持され発展していくことこそが基礎的な命題である。しかしながら、様々な社会的要因によって、必要な教育を受けられないだけでなく、生命の維持さえ脅かされている子ども達が多数存在するのが世界の現実で

ある。これを人間の保障という観点から見れば、子どもと女性の安全保障がなおざりにされ、子どもが生まれ育つ社会環境が不安定で、大人たちによって大切にされない状況にあり、逆に虐待・搾取されているということである。こうした世界の子どもを取り囲む厳しい状況は、先進国・途上国を問わず見られることであるが、特に政府が機能不全に陥っている途上国では子どもが様々な脅威にさらされている。こうした状況を改善し、健全な未来の人類を守るための活動が、国連、各国政府と並んで国際協力 NGO によって行われている。そうした活動の一端を紹介した。

(3) 講演③「タイ農村の環境保全の担い手たちとともに」上野 貴司（環境修復保全機構）

タイ国ナン県プア地区では森林伐採や火入れによる森林開発が盛んに行われており、特に近年、降雨強度の高い豪雨によって斜面崩壊や崩落などの土砂災害が頻発化している。また、森林を開墾して造成された傾斜畑では、開畑後数年以内で肥沃度が低下して放棄される事例が多い。この開畑後における肥沃度の急激な低下は、主に雨期に発生する降雨強度の高い豪雨による有機物を多く含む表土の流亡に起因している。さらに農地では収穫後の作物残渣への火入れが盛んに行われるとともに、化学肥料や農薬が多量に施用されており、農地が下流域に対する面的汚濁源として位置づけられている。

本団体では、国際ボランティア貯金寄附金の配分事業の助成を受け、ナン県プア地区において森林再生と有機農業を軸とした持続的農業生産環境の構築に取り組んでいる。生活していくこと自体困難な人々が多い途上国において、現地住民の方々が主体となった活動の実践を目指してきた本団体の取組の一端を紹介した。

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：植林、有機農業の指導、堆肥加工センターの建設及び運営指導、環境教育の実施
- 実施期間：平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月
- 実施地域：タイ



特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか

1. 開催日：平成22年6月12日
2. 開催場所：大阪府豊中市玉井町1-1-1-501
とよなか男女共同参画推進センター「すてっぷ」 セミナー室1A・B
3. テーマ：「ネパール・講演と活動報告のつどい」
4. 講師：南 真木人氏（国立民族学博物館准教授）
5. 参加者：42名
6. 内容：・活動報告写真展
・講演「ネパール社会と女性」、「ネパール活動報告」

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

##### 第1部 講演「ネパール社会と女性」

講師：南 真木人さん（国立民族学博物館 研究戦略センター准教授）

多文化・多民族・多言語・多宗教によって複雑に織りなされるネパール社会の構造と変化を、女性に焦点をあてて、わかりやすく読み解いた。ネパールでの支援活動を行うにあたり、その社会背景や女性の置かれている立場を知る上で大変参考になる内容であった。また、一般参加者からは、「多様かつ重層的なネパールの文化に触れ、大変興味深かった」などの感想が寄せられた。

##### 第2部 ネパール活動報告

2010年4月～5月にネパールを訪問したTIFAネパールプロジェクトメンバーより、現地の状況を映像を交えて報告した。

##### ①女性自立支援 報告者：バティ・シュレスタ（TIFA会員）

自らの体験から、ネパール人女性の置かれている状況を紹介し、教育の大切さを訴えた。また、貧しい子どもたちへの奨学金制度を立ち上げた経緯や、今回（2010年4月）奨学生と交流した様子を写真を交えて報告した。

##### ②TIFA子どもの家 報告者：櫻井洋子（TIFA会員）

1999～2003年度に国際ボランティア貯金配分金から助成を受けて運営してきた女の子の孤児院は、現地NGOスタッフの努力により、徐々に自主的な運営に移行しつつある。年長者と年少者が助け合って元気に学び暮らしている最近の様子を報告した。

##### ③ドダウリ村での地域医療支援 報告者：葛西美紗（TIFA代表）

2009年度、ボランティア貯金の配分金を受け実施した、診療所増築・看護師派遣、運営指導、衛生教育の成果を報告し、これからの見通しなどを話した。

現地カウンターパートが中心になって、村人達が話し合っ、住民に役立つ診療所になりつ

つある模様をパワーポイントで写真を見せながら報告した。

### 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：住民のための診療所の増築、運営支援、衛生教育の実施
- 実施期間：平成21年4月から平成22年3月
- 実施地域：ネパール



# 社会福祉法人 国際視覚障害者援護協会

1. 開催日：平成 22 年 9 月 4 日
2. 開催場所：東京都文京区本駒込 22-12-13  
アジア文化会館 2 階 129 号室
3. テーマ：「障害者分野における国際協力」-開発途上国における視覚障害者の就労について-
4. 講師：カマル・ラミチャネ博士（日本学術振興会特別研究員）  
各国状況発表（援護協会招聘留学生）：  
メウンボラボン・センスリヤン（ラオス・神奈川県立平塚盲学校）  
サヌティ・ゴレティ・マリア（インドネシア・神奈川県立平塚盲学校）  
グエン・タイ・フォン・ニヤ（ベトナム・埼玉県立特別支援学校塙保己一学園）  
ファン・バン・ソン（ベトナム・筑波大学附属視覚特別支援学校）  
タン・リー・メイ（マレーシア・筑波大学附属視覚特別支援学校）  
ダムディンツェレン・ニヤマフー（モンゴル・筑波大学附属視覚特別支援学校）  
バトバヤル・エンフマンダハ（モンゴル・筑波大学附属視覚特別支援学校）計 7 名
5. 参加者：50 名
6. 内容：・ネパールの障害者についての講演及び留学生による各国状況の発表

~~~~~

講演会内容

■講演概要

冒頭、主催者を代表して、援護協会（IAVI）理事長の石渡から、協会の歴史・協会事業の紹介と本講演会を開催するにあたっての挨拶ならびに国際ボランティア貯金の寄附金配分を受けて 2009 年 9 月インドネシアのバリ島でマッサージセミナーが開催されたこと、また本講演会がゆうちよ財団の助成を受けていることが報告され、事務局長の山口から講師、カマル・ラミチャネ氏の紹介があった。

続いて本題であるカマル氏によるネパールの障害者についての講演（1 時間）と援護協会招聘のアジアの視覚障害留学生 5 ヶ国 7 名による自国の障害者数や特別支援学校数、就学、教育、就労等の現状についての報告（各 15 分程度）があり、それを基に、参加者との質疑応答を通して、開発途上諸国の障害者への理解を促すとともに、障害分野における国際協力の重要性を市民とともに考えた。

（カマル氏の講演内容）

ネパールでは 1981 年の国際障害者年を迎えるに当たって法制度も整い始め、国家的な障害者研究も始まった。60 年代から障害者の特別支援学校や統合教育が開始されたが、その多くは NPO の率先した体系化とサポートによって支えられた学校であった。

障害者教育の重要性を計測可能な数値で表すため、障害者が享受した教育年数とその結果得られた賃金のリターンを計算した収益率を研究した。被験者はネパールの障害者（肢体不自由、視覚、聴覚）421 人。それぞれの教育年数、職業、両親の姿勢、賃金の統計・分析を行った。障害者の就労による収益率は 19.4%~32.2%と見積もられ、障害の種別による独特の傾向があることが判った。肢体不自由者は、学校への通学手段が整えば一般校で健常者と同じ教科書を使って教

育を受けることができる。そのため、他の種別の障害者よりも大学進学率が高く（51%）就労先も比較的広い職種に及ぶ。視覚障害者の大学進学率は近年増加傾向にあり、関連法の制定により一般校における教職への門戸も開かれた。視覚障害を持つ被験者の41.46%は一般校で教鞭をとっている。一方、聴覚障害者に対する教育は遅れており、大学進学者は毎年全国で数名となっている。聴覚障害者は視覚障害者と比べた場合、就学年数が平均で2年短い。就労先も飲食店が一般的で、教職などと比べると賃金の収益率は低い。その他、障害者教育の重要性への家庭の理解が、障害者の就学年数に著しい影響を与えていることが判った。

それとともに、障害者はそれぞれの能力を生かせる仕事に就くことで経済的自立ができることが、研究で明らかになった。障害者の就労機会を増やすとともに、障害者に対する偏見や差別の撤廃が強く求められる。長所に根ざしたアプローチによって、障害者も市民として社会発展に貢献できるだろう。

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：視覚障がい者の自立のためのマッサージ技術の指導
- 実施期間：平成20年4月から平成21年3月
- 実施地域：ネパール



特定非営利活動法人 国境なき子どもたち

1. 開催日：平成 22 年 5 月 8 日
2. 開催場所：東京都新宿区新宿 1-4-10 アイテム本社ビル 2 階
アイテムフォトギャラリー「シリウス」
3. テーマ：国境なき子どもたち写真展ギャラリートーク「写真に込めるフィリピンの歌声」
4. 講師：安田 菜津紀氏（フォトジャーナリスト）、渡辺真理（司会）
5. 参加者：160 名
6. 内容：・写真展
・自立支援施設「若者の家」の取材をとおしたトークショー

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

国境なき子どもたち (KnK) は、2001 年 12 月にマニラ首都圏ケソンにて、当初医療系国際 NGO が行っていたストリートチルドレン支援活動を、その団体が撤退する際引き継ぐ形で活動を開始し、恵まれない青少年のための自立支援施設「若者の家」を開設した。

2009 年 9 月 26 日にフィリピンのルソン島を襲った台風 16 号“ケツァーナ”により、KnK の活動地であるバゴンシーランも被災したため、当初 12 月に再オープン予定だった国際ボランティア貯金寄附金配分事業で建設された「若者の家」は一時的に近隣の被災した子どもたちや乳幼児をかかえる母親たちのための避難所として活用された。その際、台風で家が浸水した子どもたちに、制服や教材などの配布を実施した。

KnK が国内の青少年向けに行っている「友情のレポーター」という 11 歳～16 歳の子どもの中から一般公募で選ばれた子ども二人を KnK の活動地に派遣するというプロジェクトがある。帰国後に取材したことを日本の人々に伝えるというのがレポーターの使命だが、安田さんは 2003 年に友情のレポーターとして選ばれ、カンボジアを取材し、その経験がきっかけでフォトジャーナリストになった。そのような経緯もあり、今回はフィリピンの撮影を依頼した。

安田氏から、次のとおり報告があった。

クリスマスでにぎわうマニラ市内では、地方から出稼ぎにきて公園のゴミから食べ物を探す子どもたちや、家を飛び出したものの生活していくことができないため売春をせざるをえない少女たちなど、都市では貧富の格差が浮き彫りとなっている。

周囲からの嫌がらせや同じストリートチルドレンの集団から身を守るため、子どもたちは集団となり身を守っていた。一方、他の集団との抗争や犯罪など路上生活は犯罪と密接なかかわりがある。

スラム地域は一般に水辺に近く、普段から水の被害に遭っている。2009 年のサイクロンでは川が氾濫し家が崩壊して行き場を失った世帯に対して、KnK は物資配給を行うと共に、被災した子どもたちを一時的に自立支援施設「若者の家」で保護をした。避難時に妊娠していた女性が「若者の家」で女の子を出産し、現在ではスタッフや子どもたちに可愛がられている。

「若者の家」には貧困や親が再婚したなどの理由で育児放棄された子どもたちが暮らしており、現在は、「若者の家」で共同生活を送りながら学校に通っている。両親と一緒に暮らすことはで

きないが、スタッフの愛情を受けて成長している。スタッフの中にも元ストリートチルドレンがおり、自分たちの経験を活かして活動に当たっていた。

自分にとって今回のフィリピン撮影取材は始まりであり、今後も取材を続けていきたいと思っている。会場に来てくれた方が関心を持ち続けて、今日聞いた話を誰かに伝えてほしい。お金のある方は寄付という形で支援をお願いしたい。

### 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：識字訓練及び職業訓練の実施、社会参加のための心理ケアの実施
- 実施期間：平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月
- 実施地域：フィリピン、カンボジア



# CRI-チルドレンズ・ハウス・インターナショナル

1. 開催日：平成 22 年 7 月 24 日
2. 開催場所：長野県松本市神林 5300  
信州スカイパーク やまびこドーム第 1 会議室
3. テーマ：「多文化共生」
4. 講師：小貫 大輔氏（CRI 代表運営委員）、ミヤガサコ・ナンシー理沙（CRI 運営委員）
5. 参加者：139 名
6. 内容：・ワークショップと講演会

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

## 講演会内容

### ■講演概要

去る 7 月 24 日、長野県での NGO 講演会を無事に開催した。内容は、ブラジルのスラムや漁村で CRI が繰り広げているボランティア活動、それらの活動で国際ボランティア貯金寄附金の配分を受けて実施してきた様々な活動（コミュニティ・センターや保育施設の建設や運営など）、日本でミヤガサコ氏が繰り広げている「外国にルーツのある若者たち」のネットワーキング活動、および私たちが 2006 年以來続けている「マルチカルチャー・キャンプ」についてだった。プロジェクターでスクリーンに写真を投影しながら講演。

この日は、長野県のブラジル学校 3 校の生徒たちがおよそ 100 人集まり、それらの学校の先生方 12 人、親御さんたちおよそ 20 人と、私どものボランティア 19 人を合わせると 140 人ほどの集まりとなった。

子どもたちとボランティアたちは終日、縄跳びやジェスチャーゲーム、ハンカチ落としなどの様々な遊びをした。講演は、午後の時間に先生方と親御さんたちに聞いていただき、その後、ブラジルと日本を結ぶこれからの活動のあり方について様々にディスカッションを行った。

プレゼンテーションが 45 分ほど、ディスカッションは 1 時間近く続いた。当初は会議室を借りる予定だったが、子ども達の様子が気になるということもあって、会議室はやめにして、運動場の片隅に車座になりマイクを使って話をした。

### 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：① 貧困地域の子どものための託児所建設と教育者、保護者に対する教育に関する啓発活動の実施
  - ② 貧困地域の青少年のための職業訓練
- 実施期間：平成 21 年 4 月から平成 22 年 3 月
- 実施地域：ブラジル



# スリヤールワ スリランカ

1. 開催日：平成 22 年 11 月 13 日
2. 開催場所：愛知県海部郡大治町堀之内南二反畑 606  
大治小学校
3. テーマ：なかよし国際理解教室
4. 講師：服部 和子氏（スリヤールワ スリランカ代表）、  
池田 教一氏（スリヤールワ スリランカ事務局長）
5. 参加者：児童 35 名、保護者 30 名
6. 内容：1) 世界地図・映像を使ってのスリランカの位置や概要  
2) 国際ボランティア貯金の仕組み等  
3) 国際ボランティア貯金によるスリランカにおける活動  
4) スリランカの民族舞踊  
5) 民族衣装の試着体験  
6) 質問タイム  
7) 生徒からのお礼の言葉

~~~~~  
講演会内容

■講演概要

世界地図・映像を使ってスリランカの位置や概要を説明、会を設立した経緯及び国際ボランティア貯金について仕組みを簡単にわかりやすく説明した。

国際ボランティア貯金の寄附金を受けての事業についての講演は、以下の内容で行った。

平成 12 年度からは、「農村女性の自立のための職業訓練所」の建設、運営を実施し、足踏みミシンから工業用シシンの導入により、現地ローカルマーケットからのオーダーもあり、収入が得られるようになった。訓練生の家族にとってそれが唯一の収入になっているところもある。また、津波エリアに託児所を建設、運営しているが、現在 58 人の 3、4 歳児の幼児教育を行っている。ここは津波以前から経済的に恵まれないエリアであり、親が十分な教育を受けるチャンスもなく羨もきちんとされていなかったが、託児所で子どもが教育を受けることによりこの 5 年間で子ども達の成長はもとより、親の教育に対する理解が深まり、託児所の行事にも積極的に手伝い、参加するようになった。また最近は学校を建てて欲しいという要望もある。託児所の子ども達の教育を通して、親が教育の大切さを実感した結果とも言える。

今年度は、新たにドラゴンフルーツの栽培指導のプロジェクトに取り組んでいて、日本ではなじみの薄いドラゴンフルーツについては映像と拡大写真を使ったパネルの両方で紹介した。

スリランカの民族舞踊は日常的に目にすることの出来ない民族衣装での舞踊であり、親子で熱心に観ていた。また、最後に生徒から「いい時間が過ごせた、知らないことをたくさん知って将来に役に立ったらいい」とのお礼の言葉があった。

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：農業所得向上のためのドラゴンフルーツ栽培指導
- 実施期間：平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月
- 実施地域：スリランカ



特定非営利活動法人 DANKA DANKA

1. 開催日：平成 22 年 11 月 7 日
2. 開催場所：青森市古川 2-17-8
古川食堂
3. テーマ：アフリカ理解講座 in あおもり
4. 講師：ファティ・ソー（青森中央学院大学） 西村宏子（DANKADANKA 理事長）
5. 参加者：36 名
6. 内容：・アフリカ体感ワークショップ
・国際ボランティア貯金寄附金による職業訓練事業報告
・交流会（セネガル料理体験）

~~~~~

## 講座内容

### ■講座概要

第 1 部のアフリカ体感ワークショップではセネガル出身・青森在住のバスケットボール選手ファティ・ソーが「アフリカの音・味・香り」を紹介し参加者がアフリカを五感で感じられるようにした。アフリカの音では、地元のジェンベ奏者が太鼓で伴奏し、ファティ・ソーがバスケット試合の時の応援ステップを披露、参加者全員で練習したため大変効果的なアイスブレイキングになった。

アフリカの味では、セネガルのスパイスコーヒー「カフェトバ」を試飲、アフリカの香りではセネガルのお香「チューライ」と、それにまつわるファティの母親のエピソードなどが紹介された。

第 2 部では、ボランティア貯金助成事業であるセネガル国・ティエス市クルイサ村の職業訓練事業とマンゴー果樹農園の状況をビデオで紹介した。村人たちの要望に応えこれまで行ってきた染色・縫製訓練の経過、今年度の木工家具訓練の様子、共同作業場の使用状況、荒地からマンゴー果樹農園に至るまでの様子、活動の担い手となる現地スタッフ育成・識字訓練の様子が紹介された。特に今年度の助成事業である木工家具訓練は技術習得に数年かかるため、助成期間終了後も継続して訓練ができるようボランティア活動に関心があり現地指導できる木工家具職人の発掘協力を参加者たちに求めた。また、講座開催地青森で偶然出会ったファティとその弟が今回の講座企画をきっかけに、日本とセネガルにおいて支援活動に関わっていくことになった事や、木工家具訓練参加者の一人がクルイサ村近隣に住むファティの母親に助けられた事があった話などを紹介した。

交流会ではセネガル料理ヤッサと生姜ジュースが提供された。参加動機の大半がセネガル料理にあったために参加者からは活発な質問が飛んだ。講座・交流会とも話の合間に随時、気軽に質疑応答が行われ参加者と講師の双方向の円滑なコミュニケーションが流れた。

講座開催は新聞記事で広報したが、アフリカ料理に関心を寄せて参加した者が多数であった。参加者の殆んどがこれまでボランティア活動に関わった事がなく、セネガルという国名やその位置を知らなかったり、国際協力への関心はさほど高くなかった。しかし、プロジェクト村の様子

をよく知る青森在住セネガル人の協力を得、参加者は遠いアフリカで行われている海外支援事業をより身近に感じる事ができた。講座終了時には新規会員登録者2名、また、講座の続編やセネガルへのスタディツアー企画などが要望された。アフリカ支援事業への協力の輪を日本国内で広げていく第1歩は、アフリカを身近に感じ、その現実と自分たちの現実が重なる部分を探す事だと考えるが、今回の講座では、参加者たちにアフリカへの理解と支援活動への関心を十分に喚起する事ができた。

## 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：職業訓練、職業訓練設備の設置、識字教育及び農業技術指導
- 実施期間：平成22年4月から平成23年3月
- 実施地域：セネガル



## 特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

1. 開催日：平成22年6月23日
2. 開催場所：北九州市八幡東区平野1-6-1  
九州国際大学 国際学部教室
3. テーマ：「インドネシア・スンバ島での国際協力の成果と活動からの学び  
～国際ボランティア貯金配分事業の紹介～」
4. 講師：米山 敏裕氏（特定非営利活動法人地球の友と歩む会 事務局長）
5. 参加者：80名
6. 内容：インドネシア・スンバ島で農業のできる基盤整備と有機農業をすすめるための研修等の活動を紹介。

~~~~~

講演会内容

■講演概要

2010年3月に終了したインドネシア東部にあるスンバ島での事業を住民の置かれている環境についてスライドで紹介し、今回建設した灌漑施設、給水施設及び肥料づくり研修の様子の説明を行った。

この事業は「国際ボランティア貯金」の助成ですすすめられたもので、遠隔地にあり農村部での住民の生活は困窮を極めてきているなかにあって農業のできる基盤整備を図り有機農業をすすめるための研修や実践を行った。

この事業地となったスンバ島では自然条件も厳しい上に、政府からの支援も得られない状態となっている。また、今回の事業で全面的な協力をしてくれた地方施設の開発局では、十分な予算がないため住民の人材育成をはじめ農業復興や灌漑施設の建設までは手が回らない状態となっている。そのため農民の生活は困窮を極めてきていた。今回の事業は政府の期待も高く、県知事を含め、開発局でも成果を大いに発展させていくためのよいタイミングとなったと評価された。

農民の置かれている状況は伝統的な農業を細々とすすめているなかで、近年の気候変動の影響もあって降雨量が減少し農業生産が困難となっている。それに加え農業技術、知識も乏しく生産ができなくなってきている。しかし、農業生産を上げていくための材料は住民の周りにはいっぱい存在している。今回の事業では農業生産を上げていくために手軽に入手できる材料を用いての肥料づくり、害虫駆除液づくり、基本的な野菜作りのための技能、種子の残し方を研修し、実践した。

この事業では5か村において農民グループを形成し、彼らが協力して農業復興に取り組めるような技術研修も実施した。今回建設した灌漑施設、井戸、給水タンクの維持管理、破損したときは修理が必要となり経費も発生してくるので、そのための会計の仕方、会の運営方法について定期的に研修を開催していった。

<受講者の反応>

貧しい農村部での農業ができる環境をつくっていくことの難しさと大切さを知ることができ有意義な講演であるという意見が聞かれた。

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：農民のための給水、灌漑施設建設、農業技術の指導
- 実施期間：平成22年4月から平成23年3月
- 実施地域：インドネシア



特定非営利活動法人 地球ボランティア協会

1. 開催日：平成 22 年 7 月 19 日
2. 開催場所：兵庫県芦屋市平田町 8-22
財団法人 虚子記念文学館
3. テーマ：「特定非営利活動法人地球ボランティア協会 (GVS) 年次報告会 & 講演会」
4. 講師：田中 常雄氏（元フィリピン大使、前フィリピン協会理事長）
5. 参加者：120 名
6. 内容：
 - ・平成 21 年度国際ボランティア貯金の配分事業についての報告
 - ・フィリピン情勢及び各セクターによる援助プロジェクトについて

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

講演会は、田中常雄元フィリピン大使が「外交よもやま話」というタイトルでご講演した。まず話されたのは、GVS とフィリピンの関係についてである。フィリピンは海外への出稼ぎの送金などもあり、微増ではあるが経済成長を果たしている。しかしながら、国民の 40%以上が貧困に苦しんでいるという現実がある。その中で GVS は、フィリピンを中心に貧困地域の人々が自らの力で収入を得ることができ、プライドをもって生きることが出来ることを目標に活動をすすめている。現在まで 39 のプロジェクトを実施し、フィリピン政府から高い評価を得ているということであった。2010 年 2 月 15 日には、フィリピン・日本友好祭のプログラムの一環として、マラカニアン宮殿にて当時のアロヨ大統領から感謝状を頂いた。

他にも北朝鮮の外交姿勢や中国の抱えている問題から、日本がどのように外交姿勢をとっていけばよいのかといった話があった。最後には、BBC の調査から海外諸国が抱く日本に対するイメージをお伝えいただき、日本に対し最も肯定的な捉え方をする国がフィリピンであることも話していただいた。

国際ボランティア貯金寄附金の配分を受けた事業は、「貧困地域に対する特産品開発支援」である。2009 年 4 月 1 日から 2010 年 3 月 31 日まで、フィリピンのバタンガス州タナウアン市で実施され、対象地域の 400 世帯が収入の機会を得ることを目標とした。フィリピン側のカウンターパートは、同州の自動車部品メーカーが設置した KH 財団であり、州知事、市長の全面的なバックアップを背景として実施されたものである。

本事業であげられた主な成果は 3 点ある。第一に、地域住民の生活力向上があげられる。この成果は、専門家を招いた簿記、戦略マネジメントのトレーニング機会を充実したことにより達成された。第二に、特産品の開発と改良、生産活動の強化、施設の整備があげられる。この成果は、特産品となるサトウキビ、イモ、キャッサバの栽培、地鶏の飼育研修を実施し、それらを専門家のモニタリングによってチェックしていくことによって達成された。また、食品だけでなく竹細工の研修も実施され、竹の椅子などを開発することに成功した。第三に、市場の開拓である。これは、開発された商品を見本市に出店し、お試し販売を行うことによって達成された。実際の販売活動を行うことで、商品の認知度を高めたことが要因である。これら 3 つの成果によって、対象地域の 400 世帯の収入機会向上を達成することができた。

## 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：貧困地域住民に対する収入増加のための特産品の開発支援
- 実施期間：平成21年4月から平成22年3月
- 実施地域：フィリピン



# 徳島ネパール友好協会

1. 開催日：平成22年6月19日
2. 開催場所：徳島県徳島市南常三島町2-1 徳島大学工学部内  
徳島大学工業会館会議室（メモリアルホール）
3. テーマ：「開発途上国の林業と架線技術」ーネパールにおける架線の可能性と課題ー
4. 講師：吉村 哲彦氏（島根大学生物資源科学部）
5. 参加者：60名
6. 内容：・ブジョン村索道架設事業の概要説明  
・記念講演

~~~~~

講演会内容

■講演概要

当事業で完成した索道は、ブジョン村の集落とメディム・コーラ（川）対岸に広がる農地を結び、今日まで人肩により運搬されていた農産物、家畜の飼料等を水力発電装置により発生する電力を活用・運搬することによって、過重な労働を軽減するとともに、余剰となる労力を様々な福祉や生活の向上のために活用しようという目的で架設した。また、ネパールでは、このような集落と農地の関係はどこでも見られ、もしこの技術が現地に定着すれば、さまざまな地域で利用できるようになる。今回の事業には徳島の林業関係者も現地で地元住民を指導しながら架設技術伝承も行った。

索形式	エンドレスタイラー式
総延長	888メートル
高低差	265メートル
原動機出力	7.5キロワット
傾斜角	15度
設計荷重	400キログラム
総工費	約1,100万円（7,667千円は国際ボランティア貯金の寄附金配分）

プロテクターで映像を示しながらの記念講演では、吉村教授が林業における架線技術を述べた後、架線集材と車両集材の利点を説明した。

次いで、ノルウェーやオーストリア等の事例を示し河川集材の歴史を説明。

中でもスウェーデンの先端技術・集材機・方法を紹介し、その優れた生産性や技術発展の歴史について説明した。逆に極端に低い日本の林業生産性に触れた。

更に索道、架線技術、集材機等の種類と、その特徴を紹介した。また日本での架線・集材システムもエンドレスタイラー式など、8事例ほど挙げて特徴を説明。

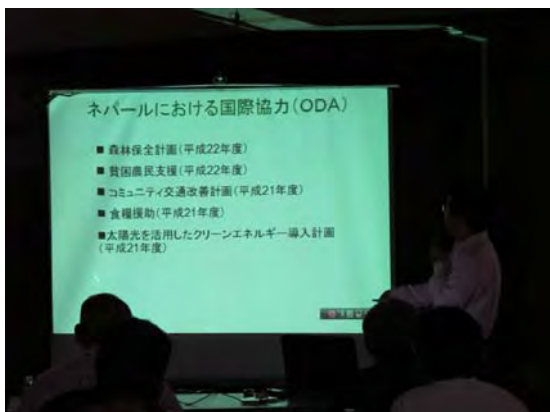
最後に、ネパールにおける架設の可能性と課題について触れ、同国の林業事情、社会の課題、国際協力(ODA、民間支援)、架線の必要性について解いた後、この度ブジョン村に導入された日本の伝統的集材木であるエンドレスタイラー方式の架線技術効果は、どの地点においても荷の上げ下ろしができ、荷揚げ場所に特別な施設を必要としない点である。操作技術は高度になるが、

棚田の多いネパールの山間においては、極めて有効な輸送手段であると考える。

更に、同村の課題として、簡易架線導入の可能性、維持管理体制の確立、建設・維持管理費用のコストダウン、輸送システムのネットワーク、人員輸送の可能性等を提起した。

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：農業労働軽減のための荷物運搬用索道の建設
- 実施期間：平成 21 年 4 月から平成 22 年 3 月
- 実施地域：ネパール



特定非営利活動法人 フロ・ワークス十和田

1. 開催日：平成 22 年 7 月 19 日
2. 開催場所：青森県十和田市大字相坂字六日町山 166-1
イオン十和田ショッピングセンター会議室
3. テーマ：青森から国際協力 Part2 ベトナムの子供たちは「今」
～ベトナムをもっと知ろう 私たちもやればできる国際協力～
4. 講師：ダン ホアン ファン氏（青森中央学院大学留学生・建設アドバイザー）
ファム ベト ホアン氏（青森中央学院大学留学生）
ゲン フォリ リン氏（青森中央学院大学留学生）
5. 参加者：22 名
6. 内容：・講演会とワークショップ

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

プロ・ワークス十和田の中野理事長より、ベトナムへ幼稚園建設を行った経緯や「国際ボランティア貯金」と「ペットボトル基金」によって建設が実現したことについて話があった。ベトナムでの NGO 活動の始まりは、当時、青森中央学院大学の留学生だったレイさんとの「出会い」にあった。中野氏はレイさんからベトナムの窮状について話を聞き、特に教育環境の改善に力を貸してほしいという願いに応え活動を開始。幼稚園建設では国際ボランティア貯金や十和田市の市民から集まったペットボトル基金を利用したことや多くの方々との「出会い」と「善意」によって成し遂げることができた。「縁」というものを大切にし、お互いがある関係を大切に育んでいくことが国際協力の原点であると参加者に伝えた。またその「縁」が今回の 3 名の留学生を招いての講演になったことも伝えた。

今回講演をお願いした 3 名の留学生はベトナムのハノイまたはその周辺の都市で生まれ、ベトナムの国際貿易大学からの留学生である。昨年も講演をお願いしたファン氏の父親はチェコスロバキアに海外勤務していた企業人であり、在ロシアベトナム大使館に務め、海外からの要人の通訳として働いていた方である。小さい頃から両親から海外の政治や経済、習慣や文化などを見聞きしていたため、グローバルな視点で物事を考えるようになり、自分も将来は世界を舞台にして働いて見たいと考えていた。また、ファン氏は幼少の頃、岩手大学農学部の研究員であった父親とともに盛岡市で生活をしてきたこともあり、「日本」という国に関心が高まり、来日するきっかけとなったことなど、現在の留学に至る経緯について話した。

ファン氏は、理事長の中野正三氏がベトナムの幼稚園建設に協力してくれる学生を求め、青森中央学院大学へ赴いた際、一番に名乗りを上げ、当団体の NGO 事業であるベトナムの幼稚園建設事業に建設アドバイザー通訳として関わった。もともと国際協力に関心があり、ベトナムと日本の架け橋になりたいと思っていたファン氏には絶好の機会だったと述べた。幼稚園はベトナムの最貧の村の一つであるバクザン省イエンズン県タンクオン村に建設され、平成 22 年 1 月 1 日に完成している。本事業の完成に至るまで理事長の中野正三氏に同行し、現地の行政関係者、建設業者との間に立ち、綿密な打合せを行ったことやベトナム人の習慣や考え方が日本人と異なるた

め、誤解が生じないように細かく説明したこと。金銭面や工事計画など少しのミスも許されない場面では、とても緊張して通訳をしたことなどを述べた。ベトナムにおける教育環境について、建設した幼稚園は既に定員以上となっており、教育施設が十分に整っていないことや家庭の収入の問題で幼稚園に通えない子どもたちがいること、机やイス、お昼寝用の布団の不足、子どもたちが学習するための絵本や玩具がとても少ないことを説明した。

また、ベトナムの自然、文化を紹介するスライドショーを準備してもらい、ベトナム料理や民族衣装のアオザイ、都市や農村部の生活風景、世界遺産ハロン湾などを美しい映像と音楽を紹介した。また、フアン氏、ホアン氏、リン氏の3名でベトナムと日本の文化や考え方の違い、日本に来て驚いたことなどを質問形式で参加者に問いかけたり、逆に参加者からいろいろな質問に応えたりした。

その中で印象に残った内容は、ベトナム人は生魚を食べる習慣があまりないため、当初お寿司には抵抗があったが恐る恐る食べたらずととても美味しくてびっくりし、今ではお寿司が大好きになったこと。日本の卵焼きは砂糖が入っていて甘いため、最初はお菓子だと思っていた。ベトナムの

卵焼きは甘くないので驚いたこと。ベトナムの民族衣装のアオザイは、身長と体重が分かれば寸法を測らずともぴったりのサイズのものを作ってくれること。職人の質が高く手先が器用な人が多いことなども教えてくれた。アオザイはサイズがぴったりなため体形の維持が重要であり、男性用のアオザイもあり、女性用に比べて地味で男らしいものが普通であること。ベトナム人にとって「赤」はお祝いごとの色であることを話してくれた。また、日本人は礼儀正しく親切な人が多いと言う印象をもっていること。しかし「本音」と「建前」という考え方があり戸惑った経験があったが、その考え方も日本人の優しさからくるものだと知り、ベトナム人も日本人も他を思いやる気持ちを大切にしているのだなと感じたこと。ベトナムは渋滞が多く、信号を無視したりバイクに3人以上で乗ったり交通ルールを守らない人が多いことが問題となっているので、日本のように交通ルールをしっかりと守る国になってもらいたいと感じていることを話してくれた。

講演後は、参加者と講師と一緒に昼食をとり、講演中聞けなかった質問をしたり、日常的な話題をかわしながら交流を深めた。参加者は中高生がほとんどだったので、人前で恥ずかしく質問ができなかった生徒も多くいたので、この昼食時間がとても貴重な時間となったようである。

午後からは、国際協力体験として、参加者が持参した絵本にメッセージをつける作業を行った。メッセージは、留学生にその場でベトナム語に翻訳してもらい参加者の顔写真を添えて貼り付けた。絵本は、ベトナムのタンクオン村の幼稚園に寄贈するもので、今年9月に現地へ届ける予定。自分が翻訳を貼り付けた絵本が海外に渡り、人の役に立つ喜びを感じ、また、自分と知り合いになった留学生に翻訳してもらったことがより国際協力の実感を深めたようである。また、絵本の本文については、青森中央学院大学の多くのベトナム人留学生の手をかりて翻訳中である。

## 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：幼稚園の備品の配備及び教員養成指導
- 実施期間：平成21年4月から平成22年3月
- 実施地域：ベトナム



# 宮城国際支援の会

1. 開催日：平成 22 年 10 月 2 日
2. 開催場所：宮城県仙台市青葉区一番町 4-1-3  
仙台市市民サポートセンター
3. テーマ：「NGO・宮城国際支援の会 2010 報告会」
4. 講師：佐藤 雅彦氏（宮城国際支援の会副会長）
5. 参加者：32 名
6. 内容：・ネパール及びタイでの活動報告及び DVD 上映  
・現地活動体験者報告及びネパール人留学生と佐藤副会長の対談

~~~~~

講演会内容

■講演概要

宮城国際支援の会（M I A A）が国際ボランティア貯金の助成で行っている事業について、広く一般市民に報告する目的で、毎年仙台市内の中心部で行っている活動報告会であるが、年々参加してくれる年齢層も幅広くなってきたように思える。今回は鈴木会長の緊急入院というアクシデントもあつての開催でであったが、延期することなく予定通り開催をし、ある意味で毎年とは違った雰囲気ではそれはそれで新鮮であったようにも感じた。また、今回は、当会に影響を受け、本年ネパールで独自に国際支援活動を行った社団法人とめ青年会議所の皆様にもゲストで参加してもらい、簡単な感想なども話してもらったり、仙台市在住のネパール人留学生プラティマ・パタ（愛称 ティマちゃん 22 歳 来仙台 1 年半）と当会の佐藤喜市副会長に民族衣装を着て、日本で生活することの苦労話などを対談形式でおこなったりして、会場からも積極的な質問などが出された。更に、地元の NHK 仙台支局が当会の活動に関心を示しており、車椅子の収集・運搬、また会議の様態などと一緒に今回の報告会の模様も撮影し、講師や参加者へのインタビューなどもおこない、今月上旬の放映予定となっている。

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：保健衛生等に関するワークショップの実施、学校給食の配布
- 実施期間：平成 21 年 4 月から平成 22 年 3 月
- 実施地域：ネパール

